

5. 埼玉県における保健所・保健センターを 窓口にした遺伝相談の現状

福嶋 義光*

要 約：埼玉県の保健行政をになう保健所・保健センター計108施設を対象に遺伝相談についてのアンケート調査を行い、92施設(解答率85.2%)より解答を得た。その結果、保健所・保健センターを窓口にした遺伝相談は極めて低調であることが明らかにされ、遺伝サービスの向上のためには医療施設に対する啓蒙が重要であると考えられた。また、近年の遺伝医学の進歩を背景に出生前診断の相談も増加してきており、早期の二次遺伝相談システムの確立が望まれた。

見出し語：遺伝相談，保健所，出生前診断，埼玉県

研究目的

埼玉県では昭和51年より、埼玉県立小児保健センターを中心に遺伝相談が始められた。昭和53年から57年にかけて保健婦などの看護職を対象とした遺伝相談セミナーが開催され、保健所・保健センターを窓口にした遺伝相談のシステム化が計られた。しかし、その後の調査で、このシステムが一向に活性化されないことが報告されている¹⁾。今回、埼玉県における遺伝相談の現状を知る目的で、保健所・保健センターの遺伝相談担当者(多くは保健婦)のアンケート調査を行い、問題点を検討したので報告する。

対象と方法

埼玉県は全国一の人口急増県であり、現在人口は約660万、全国第5位となっている。保健

行政施設として、県レベルでは24ヶ所の保健所と3ヶ所の支所、市町村レベルでは81ヶ所の保健センターが設置されている。保健サービスの一環として行われている遺伝相談の窓口となっている保健所・保健センター計108施設を対象にアンケート調査を行い、92施設(解答率85.2%)より解答を得た。解答者のほとんどは保健婦であった。アンケートの内容は、昨年1年間の遺伝相談の数と対処の方法、紹介先の有無、遺伝相談の内容、出生前診断について、二次遺伝相談の必要性などについてである。

結果および考案

まず昨年(1992年)の遺伝相談件数については表1に示す様に保健所では10施設(43%)、保健センターでは41施設(60%)、計51施設(56%)では遺伝相談が必要と思われる事例に遭遇しなかつ

*埼玉県立小児科医療センター遺伝科

表1 1992年の遺伝相談件数(1992年)

件数	保健所	保健センター	計
0件	10施設	41施設	51
1	3	4	7
2	3	8	11
3	3	4	7
4	2	3	5
5	1	0	1
6	1	1	2
7件以上	0	2	2

たという解答が寄せられた。さらに遺伝相談件数の合計も全県あわせて、1992年一年間に108例のみということになり、いかに保健所・保健センターを窓口にした遺伝相談が低調であるかがわかる。

遺伝相談が必要な事例があったときどのように対処したかについての質問では、表2に示すように保健所では保健所内で処理したものと他の施設を紹介したものがほぼ半数ずつであるが、保健センターでは多くは他の施設を紹介している。

遺伝相談が必要と思われる事例があったとき紹介先があるかどうかについての質問では保健

表2 遺伝相談の対処のしかた

	保健所	保健センター	計
保健婦が行った	7件	17件	24件
保健所(センター)の医師が行った	6	3	9
遺伝相談施設を紹介した	9	32	41
医療施設を紹介した	4	17	21
その他	12	18	30

表3 遺伝相談の紹介先の有無

	保健所	保健センター	計
紹介先がある	22	50	72
紹介先がない	2	14	16

所ではほとんどが紹介先をもっているのに対し、保健センターでは紹介先を持たない施設が14(21%)も存在した。

表4の遺伝相談の内容ではメンデル遺伝病が少なく、染色体異常およびウィルス感染、薬剤投与などの妊娠中の相談が多い傾向が認められた。メンデル遺伝病とはなにかが十分理解されていない可能性がある。

表5に示すように、出生前診断(胎児診断)の相談を受けることも増加してきているようであるが、適切な対応が取られているかどうかは不明である。相談の内容としては、ダウン症候群21件、風疹などの妊娠中のウィルス感染8件、高齢妊娠3件などであった。

一般的な遺伝相談だけではなく、遺伝子診断や出生前診断などにも対応できる二次遺伝相談

表4 遺伝相談の内容

	保健所			保健センター		
	◎	○	×	◎	○	×
メンデル遺伝病	0	8	11	0	13	44
染色体異常	7	15	1	9	31	16
奇形	5	11	5	3	24	28
診断不明疾患	0	5	12	0	20	39
妊娠中の相談	6	14	2	14	31	15
近親婚	0	12	10	0	12	42
その他						

◎はしばしば経験するもの、○は経験したことのあるもの、×は経験のないもの、数字は施設数を表す。

表5 出生前診断(胎児診断)の相談

	保健所	保健センター
相談されたことがある	13	19
出生前診断ができる施設を紹介	(9)	(5)
遺伝相談施設を紹介	(5)	(7)
紹介しなかった	(0)	(1)
その他	(2)	(9)
相談されたことがない	10	48

システムの構想に賛同するか否かの質問には、ほとんどの方が賛同するという結果を得た(表6)。

遺伝相談のあり方として、保健サービスの一環として無料で行うのがよいか、医療行為のひとつとして有料で行うのがよいかという質問に対しては、保健サービスの一環として行ったほうがよいとするものがやや多かったが、医療行為のひとつとして行ったほうがよいとするものも約40%にのぼった。一次遺伝相談は無料で、二次遺伝相談は有料で行ったらよいという意見もあった。

以上のアンケート調査より、保健所・保健センターを窓口にした遺伝相談は埼玉県においてはあまり機能しているとはいえない現状が明らかにされた。しかし、遺伝相談が必要と思われる事例について、ほとんどの保健所・保健セン

表6 二次遺伝相談システム

	保健所	保健センター
賛同する	22	42
賛同しない	0	1
わからない	2	27

表7 遺伝相談のあり方

	保健所	保健センター
保健サービスとして無料	15	36
医療行為として有料	10	23
その他	2	14

ターは紹介先の情報を持っていることも明らかにされた。したがって、遺伝相談件数が非常に少ないのは、相談しようとする人はまず医療機関にその情報を求め、保健所・保健センターには相談に来ないためであると考えられる。今後、遺伝相談を含めた遺伝サービスの充実のためには、医療施設に対する啓蒙が重要であると考えられた。また、保健所・保健センターにも、出生前診断の相談は寄せられて来ており、遺伝子診断や出生前診断にも対応できる二次遺伝相談システムの早期の確立が望まれる。

文 献

- 1) 田中倬：遺伝相談のシステム化に向けて。
臨床遺伝研究，9：38-44，1987.

Abstract : We estimated genetic services of Saitama prefecture through questionnaires sent to 108 local governmental health centers. Very few people use the genetic services that a local governmental health center offers, and collaboration between health centers and medical centers is not enough. The second system of genetic counseling, which includes molecular diagnosis and prenatal diagnosis, is necessary.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約: 埼玉県の保健行政をになう保健所・保健センター計 108 施設を対象に遺伝相談についてのアンケート調査を行い, 92 施設(解答率 85.2%)より解答を得た。その結果, 保健所・保健センターを窓口にした遺伝相談は極めて低調であることが明らかにされ, 遺伝サービスの向上のためには医療施設に対する啓蒙が重要であると考えられた。また, 近年の遺伝医学の進歩を背景に出生前診断の相談も増加してきており, 早期の二次遺伝相談システムの確立が望まれた。